

放射線のモニタリング調査

市民に安心を

木村 由美子 議員 (公明党)

問 放射線被害の内、飲食や呼吸により放射性物質を体内に取り込むことにより内部から被爆する内部被爆は、放射性物質が体内にある限り続くため、その対策が大変重要であると指摘されている。

地産地消の推進と共に、消費者に安全が確認された農産物を提供する取り組みや、子育て中の保護者の水や土壌汚染を危惧する声への対応が必要と考えるが、農作物や校庭などの市独自のモニタリング調査など、安全性確認のための対策は、

は、県が全ての学校・幼稚園・保育所の空間放射線量の測定を実施しており、市内の測定値は暫定基準値を下回っている。県では本市下岡本町の保健環境センターにて毎日測定・公表しており、現在は事故前と同水準となってきたが、さらに市民の安心感を高めるため、本市でも空間放射線量の測定を6月末から実施できるよう準備を進めている。



▲空間放射線量の測定風景

その他の質問項目

- ①災害対策(被災者支援シテムほか) ②消費者行政(消費者トラブルの実態と課題ほか) ③交通安全対策(高齢者運転免許自主返納支援ほか) ④重度心身障害者医療費助成制度の現物給付 ⑤所得格差による教育格差の実態と支援 ⑥河内地域の市道の拡幅

答 農産物は県における統一的な方法による定期的・継続的な状況把握が大切であり、すでに本市の要望を反映したモニタリング調査を計画的に実施することになっている。暫定規制値を上回った農産物は、出荷自粛などを要請し、安全性が確認された農産物以外は出荷しないことを徹底している。校庭などの安全性の確認

「百人一首」でまちの活性化を

塚田 典功 議員 (維新の会)

問 市ゆかりの文化資源の1つに「百人一首」があるが、小中一貫教育の授業教材とすることで、教育的効果が期待でき、若者に郷土を愛する心を持ってもらうことも可能である。さらに、まちを活性化させる手段として、さまざまな取り組みを展開する必要があると考えるがどうか。



▲うつのみや百人一首市民大会の様子

市では幼児から高齢者まで参加できる全国最大規模の市民大会を開催し、また、宇都宮かるた会による「かるた教室」や初心者対象の大会、税の百人一首実行委員会による「税の百人一首」の公募など、市民が中心となった取り組みも行われている。

さらに、24年度から全小中学校で実施する「会話科」の「ことばの時間」の中に、百人一首を音読し、和歌のリズムを体感し、歌の意味を知るなどの学習活動を取り入れた。

10月には「みやbe百人一首フェスタ」をオリエンス

クエアで開催し、大型ビジョンを活用した百人一首競技かるたの名人・クイーンによるデモンストレーション競技観戦や、市民が気軽にできるかるた体験教室など、百人一首ゆかりの地を周知する催しを行う。「百人一首のまちづくりのみや」として全国に誇れるような取り組みを進めていく。

その他の質問項目

- ①選ばれる町への取り組み(公共交通整備ほか) ②文化の薫るまちづくり(小幡・清住土地地区画整理事業関連) ③震災後のまちづくり(もったいない精神の発揮ほか) ④教育行政(学校教育への「会話科」の導入ほか) ⑤姉妹都市交流事業(旧マヌカウ市に関して)

夏の電力供給不足に伴う

土日出勤者への対応は

小平 美智雄 議員 (市民連合)

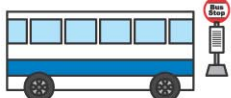
問 東日本大震災の影響による夏の電力供給不足に対応するため、土日出勤する企業が増えているが、2次産業の就労人口が5万人超の、全国屈指の「ものづくり都市宇都宮」にとって様々な影響が懸念されるため、次の点を伺う。

②今年7月から9月までの土日開催の大きなイベントは、宮まつりや花火大会など7回予定されている。こうしたイベント開催時には、ポスターやチラシ、市広報紙やホームページ、また、交通規制の場合は、主要道路へ案内看板を設置し、開催内容の事前周知を行っている。

①土日の通勤ニーズの増加に応じた公共交通機関の対応が必要と考えるがどうか。

②土日の主要イベントと通勤ピーク時間が重なる事も予測されるが、混乱を回避する対策が必要と考えるがどうか。

今後は、周辺企業への個別周知やイベントの早期周知など主催者と連携して周知徹底に努める。



その他の質問項目

- ①市長の政治姿勢(震災復興産業の企業振興ほか) ②原子力防災マニュアル整備 ③県EV・PHVタウン推進アクションプランにおける本市の取り組み ④子ども行政(待機児童ゼロへの取り組みほか) ⑤環境政策再生可能エネルギー普及促進ほか ⑥電子申請の導入

休業日の振り替えやサマータイトム制の導入などを検討しており、企業や交通事業者の対応に関する情報収集に努めている。今後も、各企業の状況把握に努め、必要に応じて、交通事業者に対して休日の運行本数の増便や臨時便の運行など、適切な対応を働きかけていく。